

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 107 号

2018年 12月



第 161 回自然観察会:十万劫自然林陽だまり観察会に参加して 佐藤昌子

11月23日、今年一番の冷え込みの中、朝7時に花見山大駐車場に16名が寒さと雨対策のウェアに身を包み集合しました。その後、スタート地点の峠まで守さんと奥田さんの車2台に分乗させて頂き移動しました。

さて、いよいよ観察開始ですが、歩き出し早々にアオダモの観察から始まりナガバノコウヤボウキの説明では驚きの事実を目にしました。というのは1年目と2年目が全く異なる外観(葉の形、枝の姿)でとても同じ植物には思えない姿だったのです。他にはウヅミザクラの成長と共に変化する木肌や落枝痕についても教えて頂きました。途中でアオダモの豆の様な種子も観察出来ました。オヤリハグマとオクモジハグマは仲良く並び、まるで「私達を見比べて！」と話しかけているようです。ムラサキシキブの紫の実、サルトリイバラの赤い実、ワインレッドのオトコヨウゾメ

また、真っ赤なヤマウルシと晩秋の里山の紅葉を十分に楽しめました。更に、タンポポの様なセンボンヤリ、薬草のセンブリ、ドライフラワーみたいなオケラ等、次から次へ観察が途切れません。カエデの種類も多く、それぞれの特徴の説明を受けますが、奥が深すぎて私はギブアップの状態でした。時には、太陽の日差しを受けたクサゴケの伸びた胞子体が美しく光ります。



ナガバノコウヤボウキ



皆で観察

モジゴケの名前の由来が文字のように見えるからと聞き、早速ルーペで観察したところ、黒い線状の物が有り確かに文字の様に見えました。しかし、モジゴケがコケ類ではない事にビックリでした。時折降るみぞれ交じりの雨が冷たく、みんなで歩こう！と声が掛かるも、すぐに立ち止まり、これって何だっけ？の連続でした。

山頂では、全員で記念撮影を行い午後からの総会に備えすぐに下山となりました。登山道からは千貫森や天井山が見え、晴れ間には眼下に阿武隈川の川面がキラキラ光り、自然を感じるには最高のロケーションでした。

今回の観察会に参加して、私の生まれ育った渡利がこんなにも自然に恵まれた素晴らしい所である事を知り嬉しくなりました。



オケラ



ヤマウルシ



モジゴケ



第160回自然観察会:奥土湯・黒沢 秋の植物観察会

菱山千賀子

10月14日は皆様お疲れ様でした。

天候もそれほど変化せず心地よい自然観察散策でした。

初めて行く奥土湯黒沢は凄く神秘的な山でした。いろいろな樹木や生物植物等変わったのが見られて興味が湧きいろいろな書物を読み知識を得たいと思いました。

カビの生態の事は凄く不思議でカビの種類や名前を詳しい先生に聞いて良かったです。カビもいろいろ調べないといけないと思いました。

これからも自然を大切に、観察散策をしたいです。

又芋煮会も沢がありせせらぎを聞きながら皆さんと食べたのは最高に醤油味噌と熱々で美味しく他にも美味しいおかずも持参していただき、果物も沢山あり下山にパワーを沢山いただきありがとうございました♪

又観察散策を楽しみにしています。

追記・又書店や図書館にはいろいろな本があり植物カビ動物の本など読んだら楽しくて研究に調べに通いたくなりました、特に熊の被害の本は興味があります。



ケヤキのアガリコの観察



木漏れ日の自然林が美しい

古いアルバムのページをめくると、セピア色に変色した、白黒の懐かしい写真が現れた。それは中学高校の山岳部時代のもので、当時は冬のスキー合宿を含めて春夏秋冬、結構山へ出かけていた。

やがて時は経ち、自分の体力には苦し過ぎる山登りは、我が世界からはもうすっかり消え去り、山ははるか彼方から眺め愛でるもの、また遠い青春時代を懐かしむものと決めこんでいた。

日本百名山の著者深田久弥に、「安楽椅子の登山家」という随筆がある。彼はそこでこう書いている。「外国に armchair mountaineer という言葉がある。深々としたクッションに尻をおろして、山の本を見ながら、架空登山を楽しんでいる老登山家の姿が眼にうかぶ、昔山で鍛えた身体はカクシャクとしているが、ただ残念ながら足腰が思うに任せない。そこで地図と紀行による安楽椅子登山で鬱を晴らしている」と。

私もある頃からすっかりこの「ロッキングチェア クライマー」を気取っていたのだが、ある日高山の原生林を守る会会員の伊藤みどりさんから、ダラダラ歩きの山遊びの会があるからとのお誘いをうけ、ダラダラという言葉に魅かれて、高山の会に参加させていただくことにした。この山歩きはとても新鮮で、道端にひっそりと咲いた花を愛でたり、人知れず咲いた高山植物の群落に歓声をあげたり、春を待つ木々の新芽の可憐さ、一途さに感動し、葉を落としたブナ林の間から覗いた蒼空の中に浮かぶ、真っ白な雪山を眺めることの喜びを知ることとなった。成程山登りには、こういう楽しみ方もあるのかと、毎回笑顔で山行を楽しませていただいている。と言ったところで、またこんな私(自称普通の人)は、ここで大いに驚き感銘する世界を覗くことができた。

それはある日の観察会でのことでした。ヒラヒラ舞う蝶々を見つけると、まるで蝶と一緒に山道で踊りだすのではないかと、心配になるほど喜びを体全体で表す会員、また小さなルーペを覗き、大木に張り付き一心不乱にじっと新芽を観察し、「美しい、可愛らしい」と感嘆の声をあげる人、またまたある時には雪上に這いつくばり、真っ白な雪の上にオレンジ色に残された、ウサギのオシッコに鼻を近づけ、「きれいでしょ、甘いジャムの匂いがするから嗅いでみなさい」と勧めてくれる親切な人や、いやはやこの高山の会には驚いたり感心したりとの連続で、本当に不思議な感動を覚える毎回の山歩きだった。そして今では、私は会員の皆さんに心から感謝し、尊敬もしているのです。それは私のどんな愚問にも、きっと誰かが解答を下さり、私を満足させてくれる。またその答えをすぐ忘れてしまう自分にガッカリしていると、「私もそうよ、聞いても三歩歩くと忘れてしまう、右から左へと抜けてしまう、鶏と一緒に」と、私に同情ではなく、同調してくれる人が必ずいてくれる。その度に「あ～、いい会だなあ～、楽しい会だなあ～」というも思わせてくれます。そしてなによりこれも忘れてはならない。それは皆さんが毎回持ち寄る豪華絢爛なる、お昼のお弁当の御相伴にあずかることです。実はこの極上の御馳走につられ、参加している自分にもまた気がついているのです。

古いアルバムの表紙には、幅広のキスリングを重そうに背負い、ピッケルを携えた6人の山男が、俯きながら一列に並んで、吊り橋を渡る姿がシルエットのイラストで描かれている。そしてそこには串田孫一の「黙って歩いてきた山を静かに想う」という言葉が添えられていた。

私は、安楽椅子の登山家になるのを、もう少し後にすることにした。



高山の原生林を守る会 2018年定期総会報告

2018年11月23日(金) 午後13:00～16:00

渡利学習センター

参加者:14名

1. 2018年活動報告

月日	内容	参加人数
11月23日(日)	第155回奥土湯自然林陽だまり観察会と総会	13名
12月3日(日)	2017年度NF米沢講演と活動報告会	2名
2月28日(木)	吾妻山周辺森林生態系保護地域の保安全管理に関する検討会	2名
3月4日(日)	第156回 高湯不動沢自然林雪上観察会	11名
4月29日(日)	第157回 蟹が沢自然林スプリングエフェメラル観察会	20名
5月5日(土)	虎捕山・野手上山登山道放射線量調査	2名
5月15日(日)	第158回塩手山・新地町防災緑地公園観察会	15名
5月25日(日)	花塚山登山道放射線量調査	3名
6月16日(土)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF米沢と共同)	7名
7月8日(日)	第159回 高湯不動沢一慶応山荘夏の山岳植物観察会	13名
7月9日-15日	瀬川強イーハトーヴ西和賀写真展&高山の原生林を守る会福島の自	709名
9月16日(土)	霊山空間線量調査(学習院大学・大野剛博士同行)	8名
10月14日(日)	第160回 奥土湯・黒沢秋の植物観察と芋煮会	19名
10月21日(土)	西吾妻登山道誘導ロープ取り下げボランティア	6名
11月23日(日)	第161回十万劫自然林陽だまり観察会と総会	16名

2. 2018年会計報告:

収入の部 (単位 円)			支出の部 (単位 円)		
科目	決算額 (B)	摘要	科目	決算額 (B)	摘要
前期繰越金	118,204		会議費	3,000	総会会場費
年会費	62,000	1000円×延べ62名(実数57名)	郵送費	15,760	会報(No103～No106)
観察会参加費	42,000	500円×84名(155回～160回)	観察会経費	4,786	芋煮会材料費
保険金差額繰入金	17,350	前払い金と実績申告の差額	交通費	19,000	車借り上げ代
利息	0		保険代	31,700	三井住友海上火災
合計	239,554		雑費	16,096	HPビルダー購入、トラロープ
			HPプロバイダー料	3,888	
			封筒印刷代	29,808	高山の会封筒印刷代(2,000枚)
			小計	124,038	
収入	239,554		予備費	0	
支出	124,038		合計	124,038	
差引残高	115,516				

収支差引残金 115,516 円を次年度に繰越すものとする。

3. 2019年活動計画: 観察会、登山道保全活動、阿武隈山地の放射線量調査を事業の3本柱とします。

- (1) 自然観察会: 8ページに掲載しました
- (2) 山形と共同の西吾妻の登山道保全ボランティアについて

月日	曜日	山域	作業内容	備考
6月15日	(土)	西大巔鞍部	誘導ロープ設置	NF米沢との共同開催
6月16日	(日)	(予備日)		
10月19日	(土)	西大巔鞍部	誘導ロープ取下	NF米沢との共同開催
10月20日	(日)	(予備日)		

次年度はボランティア作業の安全を確保するため以下の措置を講じる

- ボランティア作業参加者に、会から保険代を支払う
- ボランティア作業の山域は西大巔鞍部のみとする。西吾妻小屋下の湿原はNF米沢に依頼する。
- 鉄杭の補修および更新を森林管理署に依頼する。2019年はロープ設置区間を見直し、鉄杭の有効利用を図るとともに、西吾妻小屋に保管されている鉄杭を活用する
- 登山道保全ボランティア作業全行程の安全性と役割分担のあり方についての指針を森林管理署および環境省で提示してもらうよう申し入れする。

(3) 山岳の放射線量調査

2011年より継続している霊山、花塚山、虎捕山、野手上山の放射能汚染調査を実施します。

亙理地壘山地のことはこれまで何回か紹介してきた。鹿狼山から始まって北へ連なる山々が、阿武隈川に降りて終わるまでのおよそ30kmをいうのである。最高峰は鹿狼山430mで、あとは300m前後の低山が続き、最後の七峰山（ななうねやま）は124mである。

ここを端から端まで歩こうと思い立ち、山仲間にも呼びかけて、今回で4回目になる。今回は最後の部分で割山峠～槻木大橋を歩いた。以前から、ここは道が荒れていて、工事が入っていて歩きにくいと聞いていた。しかし、ネットを見てみると結構人は歩いているようだし、亙理町のグループが整備をしているようなので、歩けるだろうとは思ったのである。

12月2日、槻木大橋の空き地に車をデポし、割山峠にもう1台置いて、送電線の下から山に入った。入り口には目印に赤いテープが貼られてあり、送電線用の道なので踏み跡もしっかりしていた。鉄塔を過ぎて尾根を歩くが、踏み跡もまあまあ分かる状況だった。

亙理地壘山地はどこを歩いても鬱蒼とした杉林の中を通る。ここだって50年くらい前は薪炭林として落葉広葉樹で覆われていたのだろうが、今は手入れされない杉林のままだから、薄暗くて寒い。建築用として杉を使うなら、枝打ちや間引きをして管理すればそれなりに役に立つのだろうが、安い外国産の木材に押されたり、林業に従事する後継者がいなくなったりして放置されっぱなしだ。悲しい歴史である。私の実家でも地区で杉林の共有林を持っているが、誰も手入れをする人がいないと父は言っていた。

さて、歩き始めて1時間が過ぎると、突然視界が大きく開いた。箕輪峠である。「わあ！山がな～い！」と誰かが言った。昔はあったはずであろう山が無くなって、向こうに峠道が見えた。今日は日曜日なので静かだが、平日はショベルカーやダンプカーが行き交って砂利を運び出しているのだろう。それにしてもすごい。すでに山一個分は無くなっている感じだ。鹿狼山の南側にあった二鞍山も無くなってしまいそうだが、他にも同じところがあったのだと思った。ここをどうやって降りて渡ろうかと思ったら、ちゃんと踏み跡があった。工事現場の中の通れそうな所を選んで歩き、道路に這い上がった。

道路脇に「馬頭観音」の石碑があった。馬頭観音は馬の守護神であるから、昔は馬に荷を引かせてこの峠を歩いたということなのだろう。その頃は細い山道で、山の姿はどのようなものだろうか。土台部分が新しいから、おそらく採石を始める時に移動したものと思われた。

ここから三門山（みつもんやま）までは1時間ほどの道のりだが、倒木や藤・葛などの蔓があったりして歩きにくくなってきた。三門山には大きい電波塔が2カ所あり、ここで昼食とした。その後、七峰山に向かって行ったが、杉の枯れ葉が深く降り積もって歩きにくいことこの上なかった。左手に阿武隈川が見えてきた頃、突然、立派な樅の木林が現れた。これはどうしたことだろうか。薪炭の原料だったコナラなどの広葉樹を切り、その代わりに杉を植えたが、その時、この樅の木は残したのかもしれないと思った。鹿狼山周辺でも杉の植林をするときにモミの木を伐採し、それは良い値段で売れたそうだ。相馬市の塩手山にも立派な樅の木林がある。これは浜通りの自然な植生の名残ということだろう。

この辺りから標識が所々に出てきて、踏み跡もしっかりしてきた。七峰山の頂上にも三角点と新しい看板があった。道は「鹿島緒名太神社」に続いており、無事に槻木大橋にたどり着くことができた。

これからの亙理地壘山地はどうなるのだろうか。杉林は放置され、山は採石場として削り取られていくばかりなのか。考えさせられるヤブ山歩きとなった。(2018/12/20 記)



大きく削り取られた箕輪峠の両脇の山



立派な樅の木林が現れた



阿武隈川側の七峰山

東北ブナ紀行（68）

奥田 博

山形の大境山といわれて分かる方は少ない。飯豊連峰の北の端に静かに横たわる山なので、飯豊の臭いの強い山である。岩手北部の遠島山は、今年40年振りに歩いた山で、新鮮な気持ちでブナと接することが出来た。いずれにしても東北の山は北から南までブナに覆われていることを実感した。

101) 大境山 1462m

大境山は飯豊連峰北部、地神山と頼母木小屋の間から派生する尾根の最後の千m峰となる。尾根の途中の西俣ノ峰までは踏み跡が続くが、そこから大境山までは道もない。対岸の南5kmには手倉山がそびえている、という位置関係だ。ブナのレベルが高いことは容易に想像できる。



登山口には目立たない看板が立っており、

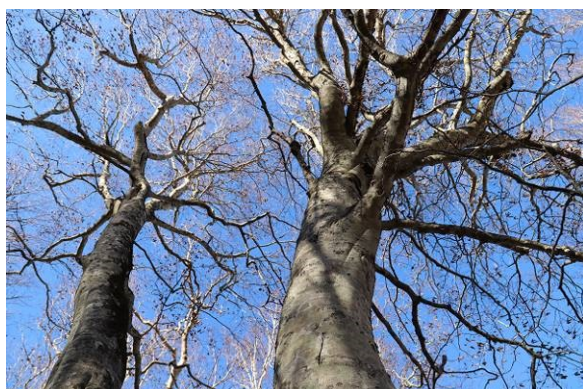
水路に沿って歩き始める。最初は谷筋を歩き、尾根にのればすぐにブナが現れた。丁度、朝霧が切れてゆく時間帯だったので、幻想的なブナの中を登る。ブナは狭い尾根の両側に並木のように現れる。急坂に差し掛かると、霧が晴れ日差しが出、森林限界を抜けて展望が得られる。登りが緩くなると、県境を越えいったん新潟県となる。水場を経て展望の県境に出ればひと登りで大展望の山頂であった。この日は佐渡まで見える快晴で、山頂には長時間留まった。コースタイム：登山口（2時間）県境尾根（30分）森林限界尾根（45分）山頂（2時間30分）登山口



102) 遠島山 1155m

遠島山を登るには、そのアクセスが課題となる。福島から高速道路を岩手北部まで走らせ、さらに国道や地方道、林道を走り、やっと登山口に到達する。北上山地北部は、一昨年豪雨に見舞われ昨年は林道が壊れていたが、今年再開して通行が可能になった。

登山口近くには立派な遠島山荘が建ち、一度は泊まってみたいと思わせる雰囲気の良い山小屋だ。広い林道跡と思われる道をたどる。林道はカラマツの紅葉が見頃だったが、100mほど登っただけでも、東側のカラマツは葉を落とし、ダケカンバ、シラカバも葉を落としている。ハウチワカエデの赤が目を引く。傾斜が増してくると、ブナの大木が現れる。林床には緑の低木が広がっているが、キヌガサソウのようにも見えるが花もないので分からない。花の季節に再訪したいと思った。二本並んだブナで、朝日が木々を染め出した。太陽に向かって幹越しにカメラを向けると、光輪が見える。細かな枝が、光線の方向だけに反射する現象だ。賢治『風の又三郎』の「ガラスの mant」を見る思いだったが、写真撮影は難しかった。道を塞ぐ大ブナの倒木を越えると、忽然とブナ林は消えてオオシラビソが現れ、山頂は間もなくだった。コースタイム：登山口（80分）山頂（1時間）登山口



大ブナだがサイズが写真では分からない二本ブナ（遠島山）



霧の中のブナは幻想的だった（大境山）

ツクバネウツギ (*Abelia spathulata* スイカズラ科ツクバネウツギ属)

吾妻・安達太良連峰のコナラ林からブナ林下部の林縁に植生する落葉広葉樹。ツクバネウツギの仲間にオオツクバネウツギ、ウゴツクバネウツギ、タキネツクバネウツギ、ベニバナノツクバネウツギがある。この中で、ウゴツクバネウツギはツクバネウツギの変種で日本海側に分布し、太平洋側を中心に分布するツクバネウツギとは棲み分けが見られる。ベニバナノツクバネウツギは高山から額取山にかけての奥羽山地や花塚山等の阿武隈山地に局所的に植生する。

葉は対生し、短い葉柄を持つ。葉形は卵型楕円形で先端は帯状に尖る。葉脈は側脈が葉形に沿うように平行に流れる。葉縁には粗い鋸歯がある。

花は頂性で、発芽後伸長した緑枝の先に頭状花序を形成し、2個の釣り鐘状の合弁花を着生する。花冠は2唇弁状で上唇は2裂、下唇は3裂する。下唇の内側には橙色の網目状の紋様が入る。ガク片は5裂し外側に開く。ガク片の形状がツクバネに似ていることが命名の由来である。雄しべは4個、花柱は1個で黄色の柱頭が雄しべの間から突き出る。花卉の色は白が基本であるが、淡黄色や淡紅色を帯びる個体もある。ベニバナノツクバネウツギは花冠が短く、花卉は濃赤色で、淡紅色と橙色の網目が内側にみられる。

高山では淡紅色の個体が多く、タキネツクバネウツギに似るが葉の形状が明らかに異なる。また中吾妻山麓は淡黄色系が多い。純白のツクバネウツギは吾妻・安達太良山系で遭遇した記憶が無い。高山の植生調査を始めた頃からツクバネウツギは気がかりな灌木で、花の色が純白の個体は希でタキネツクバネウツギかベニバナノツクバネウツギではないかと迷ったが、葉の形態等がしっくりいかず消化不良の状態のまま現在に至っている樹木である。



ツクバネウツギ(高山)



ツクバネウツギ(塩手山)



ベニバナノツクバネウツギ

イカリソウ (*Epimedium grandiflorum* var. *thunbergianum* メギ科イカリソウ属)

吾妻・安達太良連峰のコナラ林のやや湿った林床や断崖斜面に植生する多年草。ツクバネウツギと同様に吾妻山系では福島側と山形側でキバナイカリソウとの棲み分けが見られる。

葉は根茎芽から長い葉柄を伸ばしその先に2回3出複葉を3輪生する。小葉は先の尖った長いハート形で葉縁は粗い鋸歯があり、その先端は禾状の毛がある。葉の表面は成葉化すると縁から内側にぼかし状に赤みを帯びる。葉の裏と茎には柔らかい白毛が密生する。

花は腋生。葉茎の基部および節から花茎を伸ばし総状花序を形成し、錨型の花を数輪、下向きに着生する。一見、合弁花に見えるが離弁花である。ガクは8片であるが外側の4片は開花直後に落下し、花弁状の内側の4片が残る。花弁は4枚で外側は蜜を蓄えた距を形成する。花心側はラップの様な筒状を呈し、その基部に雄しべを着生する。雄しべは4個で花糸、葯共に黄色である。雌しべは1個で花柱は緑色、柱頭は黄色である。ガクと花弁の色は赤紫色で株により濃淡がある。希にシロバナ株が見られる。

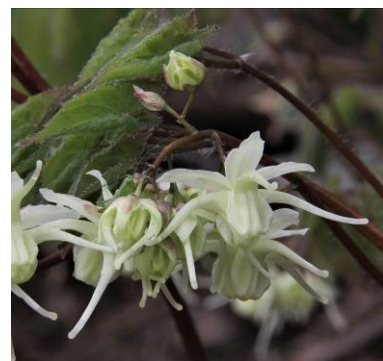
ピークを目指す山登りに精を出していた頃、職場の上司からキバナイカリソウの群落を知らないかと聞かれた。滋養強壮に抜群の効果があるのだと言う。当時、野草に興味がなかったので聞き流していた。花の写真撮影を始めて間もなくイカリソウの花に出会った。その特異な姿に特別な効果がある植物は花の形も変わっているものだと感心した。イカリソウに含まれるイカリインというフラボノール配糖体が薬効の主成分らしい。花を楽しむだけで充分精気が養われると思う。



イカリソウ



シロバナイカリソウ



キバナイカリソウ

第162回自然観察会案内：達沢不動滝周辺自然林雪上観察会

日時：2019年2月24日（日）7：30～15：30

集合場所 四季の里交差点正面入口駐車場 集合時間 7:30 参加定員 20名

内容 沼尻達沢不動滝周辺の自然林を散策し、フィールドサイン等の雪で飾られた森の表情を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋(軍手複数)、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具(スノーシュー、カンジキ、スキー)

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用:保険代(500円)

申し込み:2月26日(土)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

2019年高山の原生林を守る会自然観察会計画

回数	月日	曜日	山 域	テ ー マ	担当者
第162回	2月24日	(日)	達沢不動滝周辺自然林	雪上観察(冬芽とフィールドサイン)	奥田博
第163回	4月14日	(日)	茶屋沼・茶臼森山頂(古峯神社)	裏花見山のスプリングエフェメラル観察	佐藤清子
第164回	6月2日	(日)	吾妻小屋・鳥子平湿原	湿原植物と亜高山帯植物観察会	佐藤守
第165回	9月8日	(日)	新地町防災緑地公園(湿地再生事業)と浜辺の植物	講演と浜辺の植物観察	小幡仁子
第166回	10月27日	(日)	霊山・湧水の里自然林	紅葉観察と芋煮会	青柳静子
第167回	11月24日	(日)	大森・城山自然林	里山の陽だまり観察	渡邊アヤ子
総会			信夫学習センター		

2019年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日 (曜日)	回数	自然観察会 のテーマ	観 察 地(集合時間・場所)
1/20	日	337	冬の廻戸小屋
2/17	日	338	雪の自然観察
3/17	日	339	春を見つけよう
4/28	日	340	カタクリの里歩き
5/12	日	341	夏の渡り鳥
6/9	日	342	初夏の森歩き
7/21	日	343	夏の森
8/18	日	344	廻戸川歩き
9/15	日	345	秋の森
10/13	日	346	落葉と紅葉
11/3	日	347	冬の渡り鳥
12/1	日	348	初冬の森

- カタクリの会は西和賀町での自然観察会開催を目的とした会です。
- 誰でも自由に参加できますが、各観察会の1ヶ月前から電話でのみ受付です。
- カタクリ通信を偶数月に発行しており、希望者には年間千円で送付します。
(郵便振込みをご利用ください：
02350-5-38765 加人者名：
カタクリの会)
- 連絡先：〒029-5512
和賀郡西和賀町川尻 41-72-15
電話&FAX0197(82)3601
email:mattogoya@abelia.ocn.ne.jp
代表：瀬川強

「イーハトーブの冬」—五感で味わう世界— 瀬川 強 写真展

開催期間:2018年10月10日～2019年3月31日(日)

会場:宮沢賢治イーハトーブ館展示場(岩手県花巻市高松 1-1-1,電話 0198-31-2116)

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第107号 2018年12月発行
編集・発行：高山の原生林を守る会 HP:<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>
代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)
郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」
入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで
編 集：佐藤・奥田・小幡